

事業の背景・目的

古代より、三井楽半島は「円畑（まるはた）」で農作物をつくり、そのまわりに防風・椿油採取のため「椿林」を育て、台地を降りた白砂の海岸の合間には、溶岩を積んだ「スケアン(石干見)」で海の幸を得る農業、漁業が盛んな地域だった。しかし現在は、過疎高齢化や人口流出などで、円畑、椿林、スケアンの多くが放棄され、畑地外来種の侵入、激増したシカとイノシシによる円畑石垣崩壊と植生攪乱による表土流亡で生じた海の赤土汚染に磯焼けも加わって、漁業資源の量及び多様性の減少が起こっている。豊かな里地里海をもたらしていた古くからの人と自然の共存で育まれた豊かな生物多様性の復元を目指す。

事業の内容

事業① 円畑の保全

荒廃した円畑に、再度サツマイモ植栽の再開を進めるため、初年度は植栽開始(5, 6月)の時期的な問題もあり、該当する円畑0.4haの調査整備と、付近の畑0.1haにおける試験的な植栽と生産を行った。

事業② 椿林の手入れ

椿林の活用は、低木化、剪定など的人力が加わらないと荒廃し、高木化すると椿の実の活用は難しくなる。そのため、円畑活用の予定地域周辺部なども含めて荒廃椿林の整備植栽、剪定、椿実収穫作業を進め、該当円畑の周囲ヘツバキ植栽80本の補植を行った。

事業③ スケアンの手入れ復活

伝統的なスケアン漁施設の石積みは、波浪により破壊されたままのものがあるので、現状を調査し、漁協及び地元旧町民の了解を得て、次年度の復活作業の準備を行った。



事業④ 豊かな里地里海の地域資源を再生し、特産品化

試験的なサツマイモの円畑への植栽から製造できたカンコロ餅690本と、周辺椿林などで収穫した椿油60kgについて「五島の円畑」ブランド化を図るためのデザインや包装紙やラベルで試験的な製品として一部を業者に委託して製造し、販売ルート開拓のための提供など行った。

得られた成果

- ・豊かな里地里海の地域資源を再生し、生態系の復活と合わせて、「五島の円畑」ブランドの確立による販路拡大と意識向上を図り、地産地消による地域振興で収益を上げられるスモールビジネスを実現する。
- ・荒廃した円畑の整備とその周囲へのツバキ補植による防風林の復活整備もでき、サツマイモ植栽が可能になり、乾燥用のカンコロ棚も再生整備して伝統食のカンコロ餅の生産を拡大するとともに、椿実収穫の増産を図っていく。
- ・円畑の周囲の水路の整備により土砂流出などの防災機能の維持と景観の保全、生態系の維持を行う一環として、スケアン漁施設の石積みの復元について、機械導入により可能であることが判明。海域の漁協及び地元旧町民の了解も得たことから、復元して体験施設として活用を予定。また、後継者育成のためにもふるさと景観の維持活用の広報や、椿油の活用販路拡大を目指して「ツバキと里山里海保全サミット」(仮称)の開催を実現する。

